

令和6年度 学校自己評価システムシート（武南中学校）

目指す学校像	豊かな人間性の確立を目指し、学力の向上、健康な心身の育成を図り、志を高く持ち、21世紀の社会に貢献できる自主・自立・自学・協同の精神に満ちた生徒を育成する。
重点目標	1 授業の充実・指導改善 2 開かれた学校づくりの推進 3 高い学力と知性と教養を身に付けるための学習指導の徹底 4 自己実現を図るための指導の徹底 5 豊かな人間性を育む教育の推進

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。		
出席者	学校関係者	3名

学校自己評価						
年度目標				令和6年度評価（2月25日現在）		
番号	評価項目	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	授業の充実・指導改善	- 教科全体で授業研究を進め、授業改善と指導力向上を図る必要がある。 - 生徒による授業評価を教科全体で授業改善に生かしているとはいいたい。 - 基礎・基本を身に付けていないため、学び直しが必要な生徒がいる。 - ICTを活用した授業を展開しているが、生徒の思考力、判断力、表現力の向上につなげているとはいいたい。 - 英語の4技能を統合した授業による成果が上がりつつあるので一層工夫改善が必要。 - 他校の情報を得る機会を作る必要がある。	- 授業研究週間を活用し、教科で相互に授業参観を行い、意見交換を行う。 - 生徒による授業評価を行い、その結果を教科会で共有し、改善を図る。 - 管理職全員による授業観察を実施し、教職員にフィードバックする。 - ICTを活用し、生徒同士が情報を共有の上活用し、思考力を伸ばせるよう工夫する。 - ALTを活用し異文化理解プログラム「<i>BUNAN INNOVATION</i>」を継続して円滑に実施する。 - 他校を訪問し優れた授業や先進的な授業法を学び自らの授業実践に活かす。	- 授業研究週間による相互の授業観察の回数と教員間の意見交換の内容等。 - 生徒による授業評価の実施と教科で共有ができたか。 - 管理職による授業観察の回数とフィードバックの内容等。 - ICTを活用した授業の実施状況とその内容。思考力が伸ばせたか。 「<i>BUNAN INNOVATION</i>」の実施により、英語力、コミュニケーション力の向上が図れたか。英語検定の合格者数。 - 他校への視察の回数と研修会等への参加。	- 授業研究週間で授業観察を相互に行い、教科会で意見交換を行った。 - 管理職（校長・教頭）による授業観察を全員行い、指導助言を行い、授業力の向上を図った。 - 異文化理解プログラム「<i>BUNAN INNOVATION</i>」の実施により、3年生英語検定2級合格者1名、準2級9名、3級14名、3級以上合格者72％、といった成果が見られた。 - 県立総合教育センターに、理科・音楽各1名参加。埼玉大学教育学部付属中学校に10名参加、蕨東中学校研究発表会に3名参加、川里中学校に1名訪問し力量の向上を図った。	B
2	開かれた学校づくりの推進	- 学校公開、学校説明会、入試体験会を通して教育活動の周知に努めている。 - 近隣小学校や中学校との交流や接点が少ない。 - ボランティアや地域貢献活動等に参加する機会を積極的に取り入れる必要がある。 「武南学園だより」を発行することで武南中学校の魅力を広く周知する。	- 学校公開、学校説明会、入試体験会を保護者や地域に積極的に周知する。 - 近隣の中学校との生徒会の交流や小学校へのサポート等の実施を検討する。 - 地域の自治会や蕨市のコミュニティセンターと連携し、積極的に生徒を派遣する。 - クリーン作戦や地域のボランティア活動に参加する。 - HPや「武南学園だより」の発行の充実を図る。	- 学校公開や学校説明会、入試体験会を保護者や地域に周知できたか、その回数等。 - 近隣の中学校との生徒会の交流や小学校へのサポート等が実施できたか。 - 地域の自治会や蕨市コミュニティセンター等と連携し、生徒を派遣できたか。 - クリーン作戦やボランティアの実施回数。 - HPや「武南学園だより」の充実が図れたか。HPの更新回数、閲覧回数。	- 学校説明会6回、入試体験会2回で、計784名来校。 - 保護者会4回449名、授業公開2回128名、保護司の会来校8名。 - クリーン作戦2回実施（全員参加） - 中学生「税についての作文」募集協力校表彰、2名表彰。1日税務署長を勤める。JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2024団体賞受賞。 - HPの更新回数58回、武南学園だより11回発行。	C
3	高い学力と知性と教養を身に付けるための学習指導の徹底	- 家庭での学習時間を確保できない生徒が多く学力の伸びが緩やかである。 - 基礎・基本が身に付いていない生徒がいる。 - 予習、授業、復習のサイクルが定着できていない生徒への対応が必要である。 - 学力差がある生徒への対応が必要である。 - 教科横断型の授業やデータサイエンスの授業を実施することで生徒の思考力、判断力、表現力を伸ばす必要がある。 - 再指導や再考査の受講者を減少させるための指導が必要である。	- 朝学習を推奨するとともに放課後のサポート体制を充実させる。 - 試験問題の工夫改善を行うとともに、授業時間内に小テストを繰り返し実施することで基礎学力の定着を図る。 - 習熟度別授業や個別指導を行い、個々の能力・適性に応じた学力の向上を図る。 - STEM教育による問題解決型学習、教科横断的な学びを授業に取り入れる（社会・数学） - 数学の授業においてデータサイエンスを取り入れるとともに、その研究と検討を進める。 - 再指導や再考査を減らすための事前指導を徹底して行う。	- 朝学習や放課後のサポート体制が作れたか。学校で勉強する生徒の人数等。 - 思考力や表現力を育むための試験問題の工夫改善が行われたか。 - 小テストの実施教科数。再指導、再考査の人数等。 - 習熟度別授業や個別指導により、どの程度成績が伸びたか（学力推移調査結果）。 - STEM教育により、各教科・領域の知識や考え方を身に付けられたか。また、その学習効果。 - 再指導や再考査の人数を減らせたか。	- 朝講習I講座、放課後講習12講座等により、学力の向上を図った。 - 小テストを国語、数学、英語等で実施し、基礎学力の定着を図った。 - 学力推移調査結果（4月〜9月） 1年4月39.1→41.8 2年4月44.3→44.3（入学39.7） 3年4月45.0→45.4（入学41.0） 1月に「社会科と数学科」「理科と技術科」の教科横断型の公開研究授業に取り組み、他校の教員と研究協議を行った。 - 再指導の人数延べ人数797名（昨年度792人）再考査合格者370名（昨年度358）であった。	B
4	自己実現を図るための指導の徹底	- 一貫校として6年間を見通した進路指導・キャリア教育の充実を図る必要がある。 - 探究的な課題を設定した理科、社会科、美術科等の各種フィールドワークにより、生徒の興味や関心が広げる必要がある。 - 依然として悩みを抱える生徒や不登校生徒がおり、支援が必要である。	- 総合的な学習の時間を活用し、中学校から高校までの学びのプロセスを記述し振り返る。 - 総合的な学習の時間におけるSDGsの取組（Save the Children Japanとの連携）。 - 探究的な課題を設定したフィールドワークの取組を一層進める。 - スクールカウンセラーと連携しながら、悩みや不安を抱えた生徒及びその保護者に寄り添った支援を行う。	- 生徒のキャリア意識や職業観がどの程度高まったか。 - Save the Children Japanとの連携により、生徒の意識に変容が見られたか。 - フィールドワークの実施により、生徒の思考力や判断力・表現力が高まったか。 - 生徒面談は年間でどの程度実施できたか。 - スクールカウンセラーや教育相談員の相談件数と不登校生徒の減少数。	- Save the Children Japanとの連携により、自ら考え行動するといった生徒の意識に変容がみられた。 - 理科、美術。社会科の各種フィールドワークにより、生徒の主体的に学ぶ力や意欲、探究心を高めることができた。（別紙概要） - 不登校人数計9名（昨年10名） - カウンセラーや相談員とつなげ保護者も含め面談を行うことができた。	B
5	豊かな人間性を育む教育の推進	- 生徒の抱える課題や人間関係を把握して予防的な生徒指導に努めている。 - 生徒の規範意識の醸成を図る必要がある。 - 明るくさわやかなあいさつ、時間を守ること、心を込めた清掃など、基本的な生活習慣はおおむね整っている。 - 部活動が停滞している。生徒会活動、委員会活動も充実させる必要がある。 - アジア研修旅行の実施により、グローバルな視点を醸成する必要がある。	- 生徒の観察に努め、深刻な問題に発展しないよう初期段階で解決する。また、生徒の規律ある態度の育成に努める。 - 部活動を充実させることで、学習意欲の向上につなげる。 - 文化祭、体育祭等、学校行事の充実を図り、「協同性」を身に付け、より実践的な態度を育てる。 - アジア研修の実施により、国際性や多様性の尊重、共感力の育成を図る。	- 生徒の問題行動件数がなくなったか。規律ある態度が身に付いたか。 - 学校行事により望ましい人間関係の構築、自主的・実践的な態度が身に付いたか。 - 部活動の充実により、責任感や連帯感、学習意欲の向上が図れたか。 - 様々な学校行事の実施により、中学校への所属感や連帯感を深められたか。 - アジア研修の実施によりグローバルな視点や国際性、多様性の尊重の育成が図れたか。	- 生徒指導では、友人関係の細かいトラブル等があり、保護者対応に苦慮した。 - 部活動については、生徒それぞれが楽しんで参加ができています。 - 文化祭、体育祭、競技大会等の学校行事にクラスで協力して取り組むことができた。 - アジア研修旅行では、文化祭での事前学習の発表等を通して、充実した研修となった。	C

学校関係者評価
実施日 令和7年2月25日
学校関係者からの意見・要望・評価等
- 授業観察が授業に反映していくことを目指してもらいたい。 「<i>BUNAN INNOVATION</i>」の取組は成果を上げているので、さらに改善して進めてもらいたい。 - 外部からの見方や価値観を大切にしてもらいたい。 - 各検定試験について、生徒は担任からの情報提供により意欲を持って取り組んでいる。 - 学習は友人と切磋琢磨する環境がとても大事である。 - 教科横断型の授業をさらに取り入れてもらいたい。
- 今後はボランティア活動への取組が課題となると考えられるので、参加機会リストを提示することも大切ではないか。 - 小学校とキャリア教育をテーマにした話し合いの場を検討してもらいたい。 - 開かれた学校づくりのゴールを考えて方策を考える必要があるのではないか。 - 市内の小学生を文化祭に招待することを検討してみてはどうか。
- 学力推移調査結果から学力の伸びが明らかになっていてよい。 - 小テスト等により、基礎基本に力を入れていることはとても良い。ただし、小テストの実施については、各教科で実施の有無に差があるので実施する方向で検討してもらいたい。 - 再指導や再考査など、丁寧に指導している。 - 学力向上に向けて、朝学習と小テストを大切に続けてもらいたい。 - 生徒の学力差をどのように克服していくのが課題だと考えられる。 - 生徒が勉強につまづいたときにどのように指導していくのが重要ではないか。
- 自己実現を図るために非認知能力や自己肯定感を大事にすることが大切である。 - 予防的な生徒指導や生徒対応によく取り組んでいる。 - 生活面や学習面で、支援が必要な生徒に対して、きめ細やかに対応している。 - キャリア教育は重要であり、先を見通した取り組みに期待している。 - 相談しやすい体制が整っていい。
- 本物に触れる機会が多く、様々な取組が定着して広がっているので、継続してさらに発展していくことを期待している。 - ネットトラブルが少ないことは素晴らしい。 - アジア研修は素晴らしい取り組みであり、今後も継続してもらいたい。 - アジア研修などの行事を通じてグローバルな視点を醸成してもらいたい。 - 自己肯定感を高める教育を継続させていくために、外部講師による講演を重視した教育活動を引き続き展開してもらいたい。

